

愛光会だより

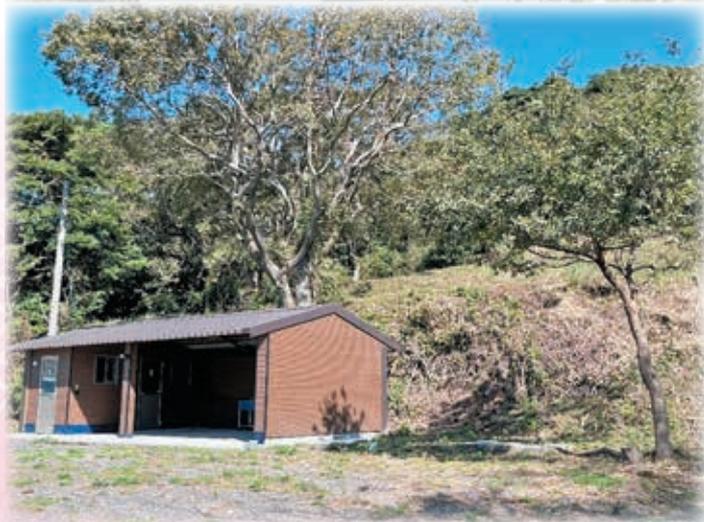


第112号

桜島学園 和光学園 桜町学園 フレンドリーホームいいぐま
総合サポートセンター ラン おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい
小規模多機能ホーム あいわ

令和5年1月1日発行

発行・編集 社会福祉法人 愛光会
鹿屋市海道町729番地6 TEL 0994-46-2821
FAX 0994-46-2825
<http://www.aikohkai.com/>



【フレンドリーホームいいぐま】

大自然に囲まれた高牧キャンプ場、遂にOPEN!!

おじゃったもんせ~!!

新年に期待して

社会福祉法人愛光会

理事長 指宿 興一

明けましておめでとうございます。

皆様方には、ご健勝にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大第六波の大波が日本を襲っている最中の二月二十四日、「ロシア」が隣国「ウクライナ」に武力侵略を開始しました。当初は短期間で終結するだろうと予想もありましたが「アメリカ」を中心とする世界各国の援助を受けた「ウクライナ」は頑強に抵抗して、十一月には反撃に転じているとの見方もあります。それに対して「ロシア」は、一般住民やインフラ施設を無差別にミサイル攻撃しています。さらに「ウクライナ」の小麦粉の輸出妨害やヨーロッパへの天然ガス供給削減等あらゆる手段を講じた上に核兵器の使用を示唆するなど恫喝しています。世界は新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大を乗り越えて「コロナとの共生」へ転換して、疲弊した経済活動の復活に水

を差すとともに「世界的インフレ」の「物価高」がもたらす「食糧危機」や「エネルギー危機」が懸念されます。そしてそのことが石炭等の化石燃料使用の増加に伴い炭酸ガス等の排出の増加に繋がり、「自然災害」が多発し、大規模化しました。アメリカのハリケーンの増加と大型化及び各地の大規模な山火事、干ばつやパキスタンの大洪水等、世界は「自然災害」の脅威にさらされています。そして「中国」の武力による「台湾」併合の現実化や「北朝鮮」の核兵器とミサイルの脅威が加わり、世界は大混乱の中新年を迎えました。

愛光会の新型コロナウイルス感染者は、令和四年十一月二十日現在、一四三名のうち利用者様八七名、職員五六名です。これに職員の家族等を加えますと二百名を大幅に超えています。利用者様は一名入院したのを除けば、軽症にて事業所内療養の結果、全員後遺症もなく無事に回復さ



れています。このことは、保健所及び関係医療機関のご指導と該当事業所職員の努力と奮闘も勿論のこと他の事業所応援職員の力添えの賜物と厚く感謝申し上げます。昨年十月月から十一月は比較的感受状況も収まり、各事業所では、面会、外出、各行事を可能な限り実施していましたが、十二月には第八波の兆しがあり、今後予断を許さない状況となりました。

あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては健康やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。旧年中はひとかたならぬ厚情を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで子ども、職員とも元気で新しい年を迎えることができました。

新年のあいさつ

桜島学園 施設長 野口 輝俊

大戦終了後、警察に補導された子どもたちは、戦後の劣悪な環境で育ってきた被災孤児であり、生き伸びるために犯罪を繰り返していたそうです。創設者はその子どもたちの家を作ろうと思いいち、昭和三十一年五月桜島に養護施設を作ったということです。

さてウクライナはどうなのだろうか。戦争により、親と生き別れになったり、路頭に迷ったりした子どもたちに、適切であったかい支援が提供されているのだろうか。安全で安心した生活を願わずにはいられません。

わが国は今年四月、こども家庭庁が創設され、こどももまんなか社会の実現をめざします。桜島学園でも「子どもたちが笑顔で、笑顔になれる場所」になるべく、子どもをまんなかにした「こどもの家」作りに職員一同頑張ります。本年もよろしくお願い致します。

少し話はそれますが、桜島学園の創設者である指宿利夫先生が、施設を作ろうと思いついた経緯が記録に残されているので紹介したい。創設者は鹿児島県警に勤務されており、第二次世界



稲盛和夫氏の「生き方」に学ぶ

和光学園 施設長 佐多 慶一

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年、稲盛和夫氏が逝去されました。京セラやKDDIを創業し大企業に育成、また、倒産寸前の日本航空を立て直し再上場へと導かれ、一方で中小企業経営者のための「盛和塾」や国際賞の「京都賞」を創設され、人類社会に多大な貢献をもたらした人物の顕彰などにも尽力されました。

しかしながら、稲盛氏の人生は、決して順風満帆なものではなく、高校・大学の受験失敗、結核感染、希望の企業も不採用、やっと入社した会社も倒産寸前で、毎日が自分の運のなさを嘆き、妬み、愚痴や不平をこぼす連続だったようです。しかし、それらを振り払うようにファイナンスミックスの研究に没頭し始めてから、運命の好転を感じるようになり、その後の京セラやKDDIの成長発展に繋げていかれたわけです。

しかし、私が深く感銘を受けたのは稲盛氏の「生き方」そのものです。確かに多くの企業の発展に寄与した功績は大きいですが、その多岐にわたる活動に通底しているもの、それは信念である「利他の心」です。稲盛氏は古

希を迎えたところから、一般の方々にもよりよい人生を歩んでいただきたい一心から、全国各地で「人としての生き方」について講演されておられました。自分の信念として「企業の目的は、株主や経営者の私利私欲のためでなく、社員の幸福のためにある。」としています。

道元の言葉に「人は練磨によりて仁となる。」とありますが、正に人の心に焦点を当て心血を注がれた一生、「皆を幸せにしてあげたい。」と強く意識されていた稲盛氏の真骨頂です。稲盛氏は幾多の書籍を出版されていますが、そのいずれも「生き方」に関するものです。京セラなど様々な会社を経営する中で、常々「人は何のために生きるのか。」を考え、自らに問い続けておられます。そして末尾は必ず「人生とは人間性を豊かにし、美しい人間性を作っていくこと、いわゆる人格を高めること。そのために繰り返し努力していく、その行為そのものが尊いのではないだろうか。」で締めくくられています。

私は、稲盛氏のこの「生き方」は真の人格者たるもので、今後これを礎に、今自分がやるべきことに一生懸命打ち込み、納得できる人生が送れたらと思います。

踏襲と改革

桜町学園 施設長 前原 昭子

明けまして、おめでとうございます。皆様方には、日頃より温かいご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、私は昭和五十七年に桜町学園に入職させて頂き、平成二十八年には施設長職を拝命致しました。その際、理事長より私の仕事における軸となる言葉を頂きました。それは、「人にはそれぞれ得手不得手がある。その人の不得手な部分を引き上げていく事が組織力の向上に繋がる事であり、施設長に求められる役割である。又、利用者様と職員の生活と人生を支えていくという視点を持って仕事に取り組む事が重要である。施設長になるということは、事業所における全責任を負わなければならないが、全ての権限を掌握するということではない。事業所は法人の基本方針に沿って動いていく組織である事を肝に銘じて、より良い事業所となるように取り組んで頂きたい。」というものでした。私はこの言葉に感銘を受け羅針盤として、様々な事案

に取り組んできました。この事はぶれずに今後も踏襲し、実践していきたいと思えます。

一方、ここ数年、新型コロナウイルス感染予防に努める観点から、利用者様やご家族様には面会や外泊、行事等、大変なご不便等をお掛けし、申し訳ない気持ちでいっぱいです。又、介護事業所の職員という事を自覚し、プライベートにおいても細心の注意を払い、感染予防及び蔓延防止に努めている職員の方さんには感謝の気持ちしかありません。しかし、昨年八月には当施設におきまして、利用者様、職員にも感染が蔓延し、ご心配、ご迷惑をお掛け致しました。その際はご家族の皆様、協力医療機関の皆様、愛光会他事業所職員の皆様方のご協力のお陰を持ちまして、罹患された方々が全員軽症で回復され、通常の日常生活に戻る事が出来ました。事に、深く感謝申し上げます。

この様にコロナ禍においては、対面式の活動が困難となり、オンラインによる面会や研

修受講、自宅でのテレワーク等々を実施する事により、事業継続が出来た事は貴重な体験となりました。これからもセキユリティ強化を図りながら、更にICT化を推し進めていく事が重要であると強く感じました。

今後も良い伝統を守りつつも変化を恐れず、「踏襲と改革」の両輪を上手く連動させ、利用者様が安心して楽しく安全に過ごせる場の提供に心がけ、利用者様、ご家族様、職員、地域社会がお互いに支えあい、共に歩む事業所を目指し、地域福祉に貢献していきたいと思えます。本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



コロナ感染について

フレンドリーホームいぐま 施設長 指宿 章子

令和五年新春のお慶び申し上げます。

コロナ感染防止対策の為、通常の活動、行事等が開催自粛の中、様々な感染防止対策への協力頂きまして誠に有り難うございます。

令和二年度よりコロナ感染防止対策を厳重に実施して参りましたが、第七波のBA5の感染力の強さに、ついに当事業所も感染に見舞われ、利用者様の大多数と職員が感染する事となりました。事業所内全体が療養病棟化し、利用者様も通常と違う事業所の雰囲気圧倒されたのが静かに静養されていきました。幸いにも重症化する利用者様は無く、食欲旺盛な事もあり、十日間程で皆様元気に回復されました。

感染へのリスクを抱えながら厳しい勤務体制の中、利用者支援を頑張りました職員に感謝の気持ちでいっぱいです。

感染後は免疫のある間にと、今まで自粛していた外出、買い物、自宅帰省等、保護者様の協力を得ながら再開し、利用者様の笑顔にこちらまでホッとする

やら、感染症への恐れが一気に抜け落ちるような感覚です。

コロナに一喜一憂している間に世界では、ロシアとウクライナの間で戦争が突然始まりまし。双方ミサイル等で攻撃し合い、ウクライナ側の甚大な被害惨劇拡大が毎日放映され、心の痛み、ストレスを感じるようになって早半年を超えています。同じ民族同士で、殺し合い破壊し合い何も生み出さない瓦礫の中で、憎しみと悲しみだけが大きく広がっています。距離的に遠く離れた国の出来事ですが、最悪日本まで大きな被害が出かねない近辺の国からのミサイル等による度々の挑発に、核シエルトター等、備えの少ない日本に落下したらとの不安が拭い去れません。

地球全体で取り返しのつかない結果にならない様、唯一被爆国日本は自衛対策を真剣に考える時です。平和ボケして、まさかそんな事は無いだろうと正常性バイアスに陥っている間、危険が身近に迫ってきているかもしれせん。

今日の頃

福祉総合相談支援センター あい 管理者 宮園 正志

新年おめでとうございます。

最近ではインターネットの大衆化により、必要な情報は簡単に得やすくなりました。そこで得られた情報は時にはダイアモンドに、時には道端の石ころに、時には個人的な感情や解釈が入り変形し加工されるようになりまし。また情報化の波により企業だけではなく家庭や個人のライフスタイルも大きく変化しました。今や企業のインターネット普及率はほぼ一〇〇%であり、今後は、それをどのよう

に使いこなしていくかが企業を存続する鍵となるでしょう。図らずも、情報が技術や経験よりも上位を占める概念になりつつあるのかもしれない。

経済産業省管轄の中小企業庁「2020年中小企業白書」に

よりますと、革新的なアイデアや技術をもとに新しいビジネスやサービスを展開する企業の生存率は「十年後が六・三%」「二十年後が〇・三%」とされています。これはベンチャー企業のことを指していますが、今後の福祉業界にとっても他人事ではないかもしれせん。それはとも

かく私自身は危機意識をチャンスに置き換えて行動しなければならぬと思っておりますが、そこに意識を向けたら気づきを得たりすることの難しさを感じています。

それでは、その危機意識(チャンス)を感じたり掴んだりするためには、どのように過ごせばよいのでしょうか。いろいろなかえ方があると思いますが、決め手の一つになるのが情報だと思います。その情報(仮想も含)をいかにうまく整理し自分たちのものにしていくか。その中には先行事例がなく経験のないこともありますので、仮想的な世界を創造しながら現実との融合を考えていく必要があると考えます。

言葉で表すのは簡単ですが、それではそのチャンスを見逃さないようにするためにどのようなにすればよいのでしょうか。これもまたいろいろなかえ方があるとありますが、大前提として「向こうからチャンスがくることはほとんどない」「ほとんどの情報をチャンスだと思わずに素通りしていることが多い」

ということを自覚することが大切でしょう。このように考えると危機意識(チャンス)に気づく力をいかに養っていくかということが大切であり、ややもすれば、大きく変化する世の中「安心・安定・安全」そんなものはないと考えるべきなのかもしれません。

最後になりますが、危機意識(チャンス)に気づく力を養いながら、これからも続くであろう「変化に富み流動的な時代」を積極的に受入れつつ、楽しく生きたいと思っております。本年もよろしくお願いいたします。



新年の挨拶

総合サポートセンターラン 施設長 松元 洋和

明けましておめでとうございます。旧年中は何かとお世話になりました。誠に有り難うございました。本年も、昨年同様ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

昨年度も新型コロナウイルス(BA5)が猛威を振るい、当事業所としても、利用者様・職員の健康管理と、施設内及び送迎時の換気・消毒に力を注いでいます。そのような取り組みを行いながら、数名の利用者様及び職員の感染者が見られました。が、重症化する事なく現在元気に過ごされています。また、サービスにおいても、利用者様及びご家族の協力、法人コロナ対策本部との連携、事業所間の情報共有、職員の臨機応変な対応で事業を継続する事が出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、そのようなコロナ禍において、事業所内の協力度制と情報共有に力を注いだ一年となりました。その取り組み内容について、ご紹介したいと思っております。現在、当事業所では、通所事業、ヘルパー事業、グループ

ホーム事業を展開しています。以前は、事業所毎で利用者様のサービスを提供していましたが、今年度からは、全職員が全サービスの利用者様に関わっています。定期的な会議以外にも、事業所の目標・課題等話し合う機会を増やす事で、様々な経験や視点からの意見を反映することができ、より良い支援を提供する事が出来ていると感じています。また、全員で全サービスに関わる事で、感染症の流行や、緊急時においても即座に対応する事が出来、利用者様が望む日々のサービスを継続して提供出来るように取り組んでいきます。

最後に、今年度も利用者様に安心安全かつ心豊かな生活の場を提供出来るよう、職員一同で取り組んでいく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後に、今年度も利用者様に安心安全かつ心豊かな生活の場を提供出来るよう、職員一同で取り組んでいく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



今後を見据え

小規模多機能ホームあいわ 管理者 新地 拓哉

明けましておめでとうございます。旧年中は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。他の福祉関係事業所と同様に、あいわも昨年はコロナウイルス感染症への対応に追われる日々でした。第七波の際は、感染者が数名発生しましたが、比較的少人数で抑えることができたのは、日頃の感染予防対策の成果だと思っております。今後の感染状況を予想することは難しいですが、暫くは対策を継続する必要があります。

さて、先日介護保険制度改革の議論が厚生労働省の専門家部会で始まったとの報道がありました。六十五歳以上の高齢者の保険料を引き上げる案、サービス利用時の自己負担が二割となる対象を拡大する案、要介護一・二の高齢者への生活援助などを市区町村による支援事業へ移行する案、ケアプランを有料化する案等が話し合われているようです。様々な声がありますが、介護保険制度維持の為に必要な判断が迫られています。制度改革

制度改革により当事業所も影響を受けることは避けられませんが、情勢を予測しながら登録者の方々のより良い在宅生活を支え、地域福祉へ貢献する為に職員一同取り組んでいく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

正の中で私が注目しているのは、介護職員の確保の問題です。今後、団塊の世代の方々が次々に七十五歳以上となることで、介護を必要とする方は益々増えていきますが、介護を担う人材が不足することが予想されています。現段階でも不足し外国人実習生に頼っている状況ですが、コロナ禍や円安で技能実習生の賃金が目減りしていること、技能実習生へのハラスメント等、問題は山積しています。日本の若い世代の方や外国人から選ばれるような魅力ある職業とする為には更なる努力が必要で

制度改革により当事業所も影響を受けることは避けられませんが、情勢を予測しながら登録者の方々のより良い在宅生活を支え、地域福祉へ貢献する為に職員一同取り組んでいく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

制度改革により当事業所も影響を受けることは避けられませんが、情勢を予測しながら登録者の方々のより良い在宅生活を支え、地域福祉へ貢献する為に職員一同取り組んでいく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



各施設新職員の紹介



桜町学園 非常勤生活支援員 武安 留美子

- ① 旦那氏とお酒を飲むこと
- ② 子どもの成長を感じた時、早く眠れる時

- ①好きなこと
- ②幸せを感じる時は？



フレンドリーホームいいぐま 高牧農場 キャンプ場 案内図

【お問い合わせ先】

☎ **0994-49-3288**

(就労継続支援B型担当職員まで)



フレンドリーホームいいぐまが管理している高牧農場（鹿屋市高牧町）に、キャンプ場がオープンしました。自然の中での息抜き、非日常を満喫してはみませんか！？

寄贈一覧

(R4.7.1~R4.11.30) ※順不同

桜島学園

- フードバンク 様
 - 株式会社 MONARIO キャピタルフーズ 高田 愛来 様
 - 株式会社ユーコーホールディングス ユーコーラッキー新屋敷店 様
 - 一般社団法人日本アイスクリーム協会 九州アイスクリーム協会 様
 - 鹿児島ライオンズクラブ 様
 - 佐藤食品工業有限会社 様
- 森田建設株式会社 様
 - カルビー株式会社 様
 - 株式会社フレーベル館 様
 - 大人になった絵本の少年 様
 - 興南工業株式会社 様
 - 鹿児島県遊技業協同組合 様
 - 株式会社鹿大丸 様
 - 長谷川 澄雄 様
 - 帖地 近行 様
- 杉木 和子 様
 - 堂園 哲也 様
 - 竹之下 次雄 様
 - 岩室 麻紀 様
 - 小脇 すみ子 様
 - 岡田 寿一 様
 - 門司 一徹 様
 - 徳永 辰則・さわ子 様

たくさんのご寄贈をいただきました。心から感謝いたします。

編集後記

明けましておめでとうございませう。愛光会だより一一二号が出来上がりましたのでお届け致します。

さて、昨年は新型コロナウィルスの猛威を身近に感じた方が多くいらつしやつたのではないのでしょうか。一時は施設の利用者様、職員にもコロナが発生し、不安な気持ちを抱え過ぎましたが、何とか重症者を出さずに乗り越える事ができました。まだまだ予断を許さない状況ではあります。今、世の中の多くが「ウィズ・コロナ」へ向けて動き出しています。ニュースや新聞の一面もコロナ関連のものが目立っていました。以前のようになんか多様なものへと移行して来た印象を受けます。

約三年間自粛した生活にならざるを得なかったコロナ対応ですが、これからは私たちが一歩ずつできることに取り組み、新しい時代と共に生きていきたいと思います。

本年も、どうぞ宜しくお願い致します。

編集員一同